

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5129300号

(P5129300)

(45) 発行日 平成25年1月30日(2013. 1. 30)

(24) 登録日 平成24年11月9日(2012. 11. 9)

(51) Int.Cl.

A 4 5 C 3/00 (2006.01)

F I

A 4 5 C 3/00

C

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2010-153580 (P2010-153580)	(73) 特許権者	509226897
(22) 出願日	平成22年7月6日(2010. 7. 6)		池 成姫
(65) 公開番号	特開2011-56246 (P2011-56246A)		東京都三鷹市井の頭5-17-39-11
(43) 公開日	平成23年3月24日(2011. 3. 24)		5
審査請求日	平成22年11月10日(2010. 11. 10)	(74) 代理人	100142136
審査番号	不服2011-14518 (P2011-14518/J1)		弁理士 深澤 潔
審査請求日	平成23年7月6日(2011. 7. 6)	(72) 発明者	池 成姫
(31) 優先権主張番号	特願2009-186275 (P2009-186275)		東京都三鷹市井の頭5-17-39-11
(32) 優先日	平成21年8月11日(2009. 8. 11)		5
(33) 優先権主張国	日本国(JP)		
早期審査対象出願		合議体	
		審判長	横林 秀治郎
		審判官	蓮井 雅之
		審判官	高田 元樹

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 鞆

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

固定接続されて略8字状に形成された、腕径よりも大径の輪形の第一紐部及び第二紐部と、

前記第一紐部が移動自在に挿通される第一接続部と、

前記第二紐部が移動自在に挿通される第二接続部と、

前記第一紐部及び前記第二紐部を略同一の大きさに固定接続する結合部と、

を有する柔軟な鞆紐と、

前記第一接続部及び前記第二接続部が接続される鞆本体と、

を備え、

前記第一紐部が前記第一接続部に対して、及び、前記第二紐部が前記第二接続部に対してそれぞれ移動することにより、前記結合部が前記鞆本体に接近又は離間することを特徴とする鞆。

【請求項 2】

固定接続されて略8字状に形成された、腕径よりも大径の輪形の第一紐部及び第二紐部と、

前記第一紐部及び前記第二紐部を略同一の大きさに固定接続する結合部と、

前記第一紐部が移動自在に挿入される第一接続部、及び、前記第二紐部が移動自在に挿入される第二接続部、が配された鞆本体と、

を備え、

前記第一紐部が前記第一接続部に対して、及び、前記第二紐部が前記第二接続部に対してそれぞれ移動することにより、前記結合部が前記鞆本体に接近又は離間することを特徴とする鞆。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、鞆に関する。

【背景技術】

【0002】

長時間にわたって重い鞆を手提げ状態、肘掛け状態、又は肩掛け状態だけで持ち運ぶ際には、持ち手を交互に換えながらでないと疲れやすい。代わりにリュックサックのような背負い状態では、両肩に負担を分散させることができ、持ち運びしやすい。そこで、手提げ状態又は肩掛け状態だけでなくリュックサックのように背負い状態でも使用できる鞆が提案されている（例えば、特許文献1参照。）。

【0003】

この鞆は、鞆紐の構造が、肩に掛けたまま重ねた上方のベルトをはずし、反対側の肩にベルトを掛けて、肩掛け使用と背負い使用とをワンタッチで切り替えることができるようになっている。そのため、鞆を使用するときの体調や周囲の状況、内容物の状態によって、把持状態をいろいろと使い分けることができ便利である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】 実用新案登録第3039968号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記従来の鞆紐及び鞆では、実際には肩掛け状態からのワンタッチ操作が難しく、取り扱いづらいといった問題がある。

本発明は上記事情に鑑みて成されたものであり、手提げ状態、肘掛け状態、肩掛け状態、そして、前抱え状態、背負い状態に使い分けることができ、かつこれらを素早く切り替えることができる鞆を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、上記課題を解決するため、以下の手段を採用する。

本発明に係る鞆は、固定接続されて略8字状に形成された、腕径よりも大径の輪形の第一紐部及び第二紐部と、前記第一紐部が移動自在に挿通される第一接続部と、前記第二紐部が移動自在に挿通される第二接続部と、前記第一紐部及び前記第二紐部を略同一の大きさで固定接続する結合部と、を有する柔軟な鞆紐と、前記第一接続部及び前記第二接続部が接続される鞆本体と、を備え、前記第一紐部が前記第一接続部に対して、及び、前記第二紐部が前記第二接続部に対してそれぞれ移動することにより、前記結合部が前記鞆本体に接近又は離間することを特徴とする。

【0008】

この発明は、第一接続部及び第二接続部を鞆本体にそれぞれ接続することによって、第一紐部と第二紐部とを把持して、手提げによる持ち運びを行うことができる。また、第一紐部及び第二紐部のそれぞれの輪内に腕を通すことによって、鞆本体を腹側又は背側に抱えて使用することができる。このとき、第一紐部及び第二紐部にかかる力を均等に配分させることができ、体に負担の少ない状態で鞆本体を持ち運ぶことができる。

【0011】

また、本発明に係る鞆は、固定接続されて略8字状に形成された、腕径よりも大径の輪

10

20

30

40

50

形の第一紐部及び第二紐部と、前記第一紐部及び前記第二紐部を略同一の大きさに固定接続する結合部と、前記第一紐部が移動自在に挿入される第一接続部、及び、前記第二紐部が移動自在に挿入される第二接続部、が配された鞆本体と、を備え、前記第一紐部が前記第一接続部に対して、及び、前記第二紐部が前記第二接続部に対してそれぞれ移動することにより、前記結合部が前記鞆本体に接近又は離間することを特徴とする。

この発明は、第一紐部を第一接続部に、及び第二紐部を第二接続部に、それぞれ挿入することによって、第一紐部と第二紐部とを把持して、手提げによる持ち運びを行うことができる。また、第一紐部及び第二紐部のそれぞれの輪内に腕を通すことによって、鞆本体を腹側又は背側に抱えて使用することができる。このとき、第一紐部及び第二紐部にかかる力を均等に配分させることができ、体に負担の少ない状態で鞆本体を持ち運ぶことができる。

10

【発明の効果】

【0013】

本発明によれば、鞆を手提げ状態、肘掛け状態、肩掛け状態、そして、前抱え状態、背負い状態で使い分けることができ、かつこれらを素早く切り替えることができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の第1の実施形態に係る鞆紐及びこれが配された鞆を示す概要図である。

【図2】本発明の第1の実施形態に係る鞆紐の作用を示す説明図である。

【図3】本発明の第2の実施形態に係る鞆を示す概要図である。

20

【図4】本発明の第2の実施形態に係る鞆の作用を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

(第1の実施形態)

本発明に係る第1の実施形態について、図1及び図2を参照して説明する。

本実施形態に係る鞆紐10は、図1に示すように、鞆本体11と接続されて鞆12を構成する。

【0016】

鞆紐10は、結合部13によって略8字状になるように接続されて、腕径よりも大径の輪形の第一紐部10A及び第二紐部10Bが形成されている。そして、鞆紐10は、第一紐部10Aがその周方向に移動自在に挿通された第一ナスカン（第一接続部）15と、第二紐部10Bがその周方向に移動自在に挿通された第二ナスカン（第二接続部）16と、を備えている。

30

【0017】

第一紐部10A及び第二紐部10Bは、带状で皮や布のように柔軟な材質からなる一連の紐が、途中の箇所で結合部13にて接続されて形成されている。なお、予め腕径よりも大径の輪形に形成された第一紐部10A及び第二紐部10Bが、結合部13にて互いに接続されていてもよい。第一紐部10Aの途中には、第一紐部10Aの長さを変化させる不図示の移動カンが配されていてもよい。同様に、第二紐部10Bの途中には、第二紐部10Bの長さを変化させる移動カンが配されていてもよい。

40

【0018】

鞆本体11には、開口部11Aが配され、開口部11Aの周囲に第一カン17及び第二カン18が配されている。第一カン17は、第一ナスカン15と着脱可能に接続され、第二カン18は、第二ナスカン16と着脱可能に接続される。

【0019】

次に、本実施形態に係る鞆紐10の作用について使用方法とともに説明する。

まず、鞆紐10の第一ナスカン15と鞆本体11の第一カン17とを接続し、同様に第二ナスカン16と第二カン18とを接続して鞆12とする。この鞆12を手提げ状態又は肩掛け状態（或いは斜め掛け状態）で使用する場合には、図1に示す状態よりもさらに第一紐部10A及び第二紐部10Bの輪をつぶしてそれぞれ重ね合わせた状態で、鞆紐10

50

と鞆本体 1 1 との間に形成される空間内に腕を通して肩に掛ける。この際、必要に応じて移動カンを操作して、第一紐部 1 0 A 及び第二紐部 1 0 B の長さをそれぞれ好適な長さに調節しておく。

【0020】

鞆本体 1 1 を腹側に抱えるように前抱え状態で使用する場合には、鞆本体 1 1 を腹側で抱えた状態で、結合部 1 3 が首の後側になるようにして第一紐部 1 0 A 及び第二紐部 1 0 B の輪内に腕を入れる。一方、鞆本体 1 1 を背中側で背負い状態で使用する場合には、図 2 に示すように、結合部 1 3 が鞆本体 1 1 の開口部 1 1 A 近傍まで移動するように、第一ナスカン 1 5 に対して第一紐部 1 0 A を、及び第二ナスカン 1 6 に対して第二紐部 1 0 B を相対移動する。そして、鞆本体 1 1 を背側にして第一紐部 1 0 A 及び第二紐部 1 0 B のそれぞれの輪内に腕を通す。

10

【0021】

この鞆紐 1 0 によれば、第一ナスカン 1 5 を第一カン 1 7 に、及び第二ナスカン 1 6 を第二カン 1 8 にそれぞれ接続することによって、第一紐部 1 0 A と第二紐部 1 0 B とを把持して、手提げ又は肩掛けにて鞆 1 2 を持ち運びすることができる。また、第一ナスカン 1 5 及び第二ナスカン 1 6 に対して第一紐部 1 0 A 及び第二紐部 1 0 B を相対移動して腕を通すことによって、鞆本体 1 1 を腹側又は背側に抱えて使用することができる。このとき、第一紐部 1 0 A 及び第二紐部 1 0 B にかかる力を均等に配分させることができ、体に負担の少ない状態で鞆 1 2 を持ち運ぶことができる。

20

【0023】

(第 2 の実施形態)

次に、第 2 の実施形態について図 3 及び図 4 を参照しながら説明する。

なお、上述した第 1 の実施形態と同様の構成要素には同一符号を付すとともに説明を省略する。

第 2 の実施形態と第 1 の実施形態との異なる点は、本実施形態に係る鞆 2 0 が、略 8 字状に接続されて腕径よりも大径の輪形の第一紐部 2 1 A 及び第二紐部 2 1 B が形成された鞆紐 2 1 と、第一紐部 2 1 A が移動自在に挿入された第一接続部 2 2、及び、第二紐部 2 1 B が移動自在に挿入された第二接続部 2 3 が、それぞれ配された鞆本体 2 5 と、を備えているとした点である。

30

【0024】

第一接続部 2 2 及び第二接続部 2 3 は、筒状体となるように鞆本体 2 5 の表面に配されている。第一接続部 2 2 及び第二接続部 2 3 の配設位置は、開口部側でも底側でもよい。

【0025】

この鞆 2 0 の作用について使用方法とともに説明する。

この鞆 2 0 を手提げ状態又は肩掛け状態（或いは斜め掛け状態）で使用する場合には、第 1 の実施形態と同様に、鞆紐 2 1 と鞆本体 2 5 との間に形成される空間内に腕を通して肩に掛ける。

【0026】

鞆本体 2 5 を腹側に抱えるように前抱え状態で使用する場合には、鞆本体 2 5 を腹側で抱えた状態で、結合部 1 3 が首の後側になるようにして、第一紐部 2 1 A 及び第二紐部 2 1 B の輪内に腕を入れる。一方、鞆本体 2 5 を背中側で背負い状態で使用する場合には、図 2 に示すように、結合部 1 3 が鞆本体 2 5 の開口部近傍まで移動するように、第一紐部 2 1 A を第一接続部 2 2 に対して周方向に相対移動する。同時に、第二紐部 2 1 B を第二接続部 2 3 に対して周方向に相対移動する。そして、鞆本体 2 5 を背側にして輪径が大きくなった第一紐部 2 1 A 及び第二紐部 2 1 B のそれぞれの輪内に腕を通す。

40

【0027】

この鞆 2 0 によれば、鞆本体 2 5 と鞆紐 2 1 とが相対移動可能に配されているので、第 1 の実施形態と同様の効果を奏することができる。

【0028】

なお、本発明の技術範囲は上記実施の形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を

50

逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

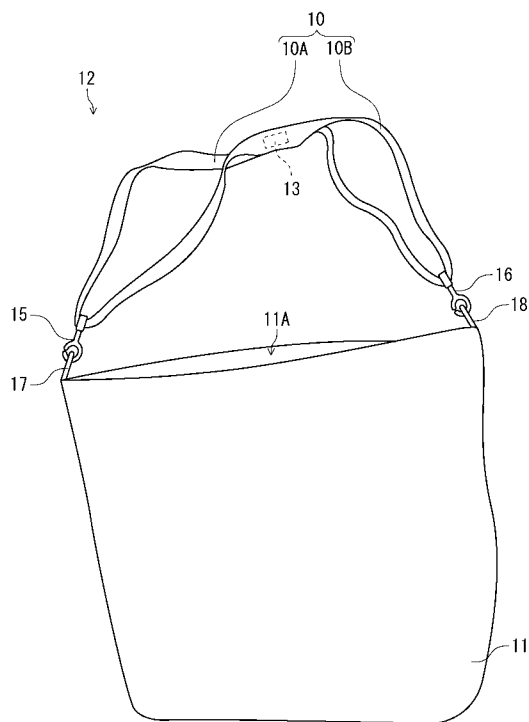
【符号の説明】

【0029】

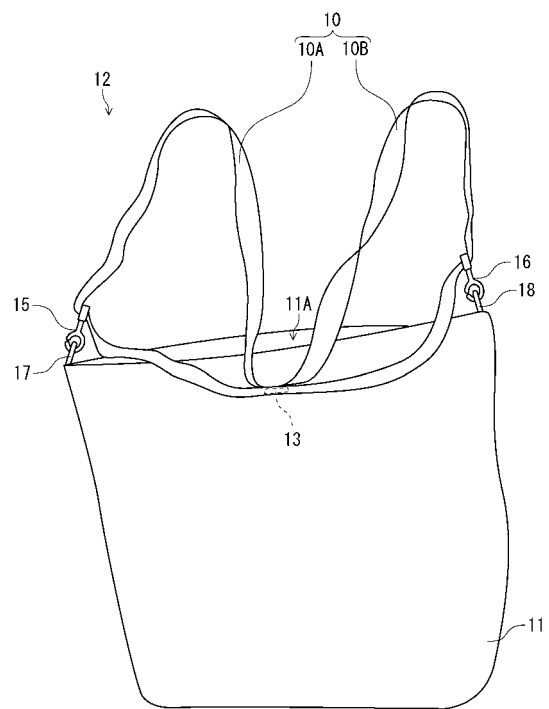
- 10, 21, 39 鞆紐
- 10A, 21A 第一紐部
- 10B, 21B 第二紐部
- 11, 25 鞆本体
- 12, 20, 38 鞆
- 13 結合部
- 15 第一ナスカン（第一接続部）
- 16 第二ナスカン（第二接続部）
- 22 第一接続部
- 23 第二接続部

10

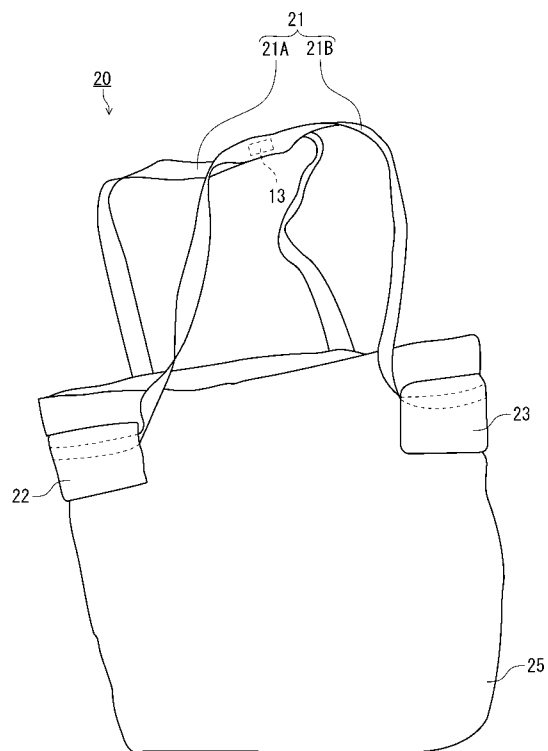
【図1】



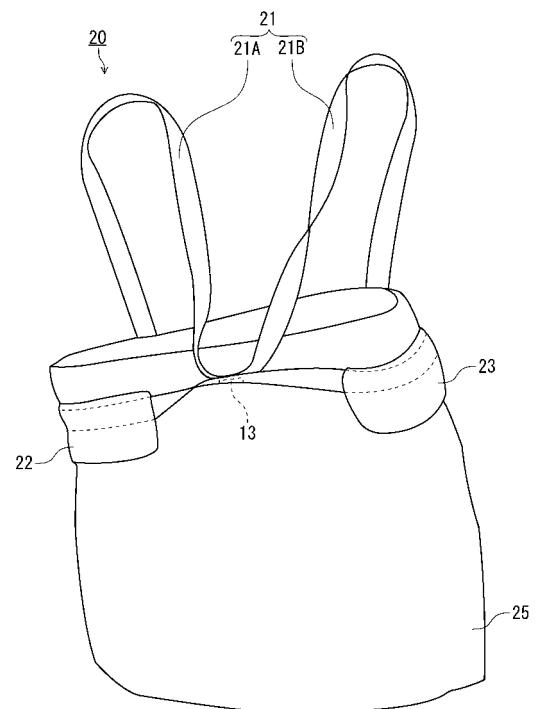
【図2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2009-136668 (JP, A)
実開昭61-153525 (JP, U)
実開平7-24119 (JP, U)
特開平10-215932 (JP, A)
実開昭62-181229 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A45C 3/00